



企画展「のぞいてみよう「地理教育の道具箱」」開催中!

CONTENTS

1. 第28回測量行政懇談会を開催 2
2. 我が国の島の数公表 3
3. 「地図と測量の科学館」に行ってみよう! 4
4. 令和4年度第2回国土地理院研究評価委員会を開催 6
5. 「自然災害伝承碑」のウェブ地図「地理院地図」公開数 7
6. 2月の報道発表・4月の主な行事予定 7

国土地理院は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染リスクを下げたイベント等の開催、テレワークの活用等による新たな日常の実現を図る取り組みを実施しています。

第28回測量行政懇談会を開催

3月8日、第28回測量行政懇談会を対面及びウェブ会議の併用で開催しました。

測量行政懇談会は、国土地理院長の私的諮問機関として、国土地理院が所掌する測量行政の的確な推進に資するために、国土地理院長の諮問に応じて測量行政に関する重要事項を調査検討するとともに、重要事項に関し、国土地理院長に意見を述べるために設置された機関です。

懇談会では、^{あさみやすし}浅見泰司委員長（東京大学大学院教授）の進行の下、6つの議題に関する報告等に基づき議論が行われました。



懇談会の様子

1. 「流通・活用制度部会の活動」

「流通・活用制度部会」の部会長である^{いのうえ}井上由里子委員（一橋大学大学院教授）から部会における審議内容、検討スケジュールに続き、個人情報ガイドライン（測量成果等編）の検討状況等についての説明がありました。

国土地理院からは以下の5つの報告を行いました。

2. 「精密重力ジオイドを基盤とした新たな標高への移行」

令和6年度に完成予定の航空重力測量による精密重力ジオイドと、標高への地殻変動補正を利用することで、衛星測位で迅速かつ容易な標高決定が実現すること、さらには時間管理を含めた4次元国家座標の導入についてロードマップも示しつつ説明しました。

3. 「国土地理院のDXに関する取組」

国土地理院のデジタルトランスフォーメーション（DX）の取組を通じて、国土地理院が機動的で柔軟（アジャイル）な組織として機能することを目的とした施策を実施することについて説明しました。

4. 「デジタル化済み空中写真フィルムの取扱い方針検討状況」

保管している空中写真フィルムをいつまでどのように管理するか、データ提供・活用のあり方等の課題について検討するに至った背景のほか、外部有識者が参画する「空中写真の管理に関する懇談会」を設置し検討を進めることについて説明しました。

5. 「次期基本測量長期計画の骨子案」

次期「基本測量に関する長期計画」の目的・背景、基本方針等のほか、計画を構成する各章は、「国家座標に基づく測量と測位」、「基盤となる地図情報等の整備」、「測量技術を活用した防災・減災、災害対応の推進」、「地理空間情報の提供及び活用推進」、「測量行政及び国際的な活動」及び「研究開発及び人材育成」とすること、今後のスケジュール等について説明しました。各委員からは、計画本文策定に向けて、「今後10年程度先の社会を見据え、長期的に測量行政はどうあるべきか」等について、アドバイスやご意見等を多数いただきました。

6. 最近の取組

国土地理院の最近の取組として、「電子地形図50000の新規提供開始」、「国土地理院災害対策本部会議運営訓練」及び「トルコ地震への対応」について報告しました。

第28回測量行政懇談会の詳細については、国土地理院ホームページをご覧ください。

<https://www.gsi.go.jp/seisakuchousei/seisakuchousei41040.html>

（総務部）

我が国の島の数を公表

2月28日、国土地理院は我が国の島の数を公表しました。この度、国土の現況を統一した規格で表し、様々な地図の基礎となる電子国土基本図（令和4年1月時点）を用いて、我が国の島を一定の条件のもと数えた結果、14,125島となりました。

近年、我が国の国土に関する関心が高く、国土全体の島の数を計数する必要があると考えたことから、一定の条件のもとで数えました。

島の定義は、我が国が平成8年に批准した「海洋法に関する国際連合条約」に基づいていますが、島の計数方法については国際的な取り決めはありません。そのため、島の計数に当たっては、法令等に基づく島のほか、電子国土基本図に描画された陸地のうち自然に形成されたと判断した周囲長0.1km以上の陸地を対象に数えました。なお、同条約では、「島とは、自然に形成された陸地であって、水に囲まれ、高潮時においても水面上にあるもの」と定義されています。今回計数に用いた「電子国土基本図」は、高潮時における陸地（海岸線）の取得を原則としており、その点では同条約の定義と整合します。なお、湖沼等内水面にある陸地は、計数の対象外としています。

一方、自然に形成されたか否かは過去の地図をもとに判断することとしましたが、小さい陸地は過去の地図に描画されていない場合があり、その判断が困難であるため、一定以上の周囲長がある陸地を対象としたものです。



計数の対象外の陸地（洞爺湖内の「中島」）

今回の計数結果は、これまで我が国の島の数として広く用いられてきた6,852島（海上保安庁、昭和62年公表）と大きく異なっていますが、現実に存在する島に大きな変化があったり、島が新たに発見されたものではありません。これには測

量技術の進歩による地図表現の詳細化が大きく影響していると考えられます。より詳細な海岸線の形状が地図に表現されるようになると、下図の例のように周囲長0.1km以上の陸地として数えることができる島の数も変化します。引き続き、我が国の国土の継続的な状況把握に取り組んでいきます。



上：過去の地図（周囲長0.1km以上の陸地は2カ所）
下：現在の地図（周囲長0.1km以上の陸地は7カ所）

今回の島の数に関する報道発表資料、及び電子国土基本図のホームページについては、以下のURLからご覧いただけます。

▼島の数の報道発表資料はこちら

<https://www.gsi.go.jp/kihonjohochousa/pressrelease20230228.html>

▼電子国土基本図のホームページはこちら

<https://www.gsi.go.jp/kibanjoho/kibanjoho40025.html>

（企画部、基本図情報部）



企画展の展示の様子

1. 企画展「のぞいてみよう「地理教育の道具箱」」がスタート

3月21日から始まっている企画展では、地理に関する様々な情報を網羅した国土地理院ホームページ内の「地理教育の道具箱」を中心に、教育現場での活用や地域の防災力向上に役立つ情報を展示・紹介しています。

今回は、展示中のパネルをいくつか紹介します。

○地理院地図とは？

国土地理院が作成したインターネットで誰でも簡単に使えるウェブ地図です。

地理院地図の機能には、

- 全国の地形図
 - 昔の空中写真
 - 標高ごとに色分けした色別標高図
 - 三角点や水準点など基準点の情報
 - 身近な地域の情報を書き込める作図機能
 - 地図を立体的（3D）に表示する機能
- など、地図を閲覧すること以外にも様々な機能があります。

○身近な地域（町たんけん）

小学校で学習する、身近な地域を探検しながら建物や田畑を調べたり、新しい地図記号「自然災害伝承碑」と土地の成り立ちの関係を確認したり、調べた結果を地理院地図でまとめる方法を紹介しています。

身近な地域（町たんけん）

町たんけんをすることになったんだけど、「何を準備して「どう整理」したらいいのか？」

身近な地域を訪れると、普段気が付かないことに気づくことがあるね。ステップ①事前準備 ステップ②調査結果の整理の順に確認してみよう。

ステップ① 地理院地図Vectorを使って白地図を準備しよう

地図選択から「白地図」を選択
必要な地域を拡大表示
縮尺から水色だけ青色に変更も可能

地図を準備して、調べたいコースを地図に書き込もう。

いよいよたんけんだね。

たんけんする時の約束【その①】持ち物、安全確保のチェック
【その②】見たこと、調べたことの探検メモをとること。

お話ししてくれる人の話はしっかりと聞いておこう。

ステップ② 調査結果を地図にまとめよう

【調べた内容を地図に書き込んでつなげる】 【表現方法を揃えて整理する】

みんなで調べたことを1枚の地図に書く時は、地図に書く表現方法（色など）をそろえることが重要だよ。

小学3・4年生の学習におすすめ！

○自然災害

地形の種類ごとに変わる災害リスクを学び、過去の土砂災害事例と3Dで表示した地形図を重ね合わせることで、どのような場所が危険であるかをパネルで紹介しています。

自然災害 -土砂災害-

～災害から学ぶ（土砂災害編）～
温故知新 過去の災害から災害リスクを学ぼう！

日本には山地が多いけどどこでも斜面災害は発生するのかな？

斜面災害に注意すべき地形があるよ。過去の事例もみながら学んでみよう。

地形と土砂災害

がけ崩れ 土石流 地すべり

斜面災害は、3つのタイプに分類できます。これらの災害は、地震や大雨などによって山地などの傾斜地で発生し、多くの人命や住居に被害を及ぼします。

実は、土砂災害に注意すべき地形があるんだよ。
✓がけ崩れ：高さ5m以上、角度が30度以上のがけ地形
✓土石流：谷の出口 など

過去の土砂災害事例と地形

伊豆大島 広島市

↑赤色で着色された場所は、2013年の台風第26号および第27号による大雨で発生した土砂流出範囲を示しています。

↑赤色で着色された場所は、2014年8月の豪雨で発生した土砂流出範囲を示しています。

土石流は、土砂（土や砂、岩石）が大雨などで流れ、水と土砂が混じってすごい勢いで流れてくるんだ。

中学生の学習におすすめ！

ほかにも、地理にかかわらず様々な教科を使った取り組みも紹介しています。例えば、「数学×地形」「歴史×地形」など教科横断的なパネルも展示しています。

企画展を見に来られた方の中には、「地理教育の道具箱」のホームページを初めて知った方や、地理院地図の様々な情報に興味を持たれた方も多く、児童・生徒はもちろん、学校の先生方、地域の防災に興味がある方にも楽しんでいただける企画展になっています。

企画展は、6月25日（日）まで開催しています。お友達、ご家族、地域の方とぜひご覧ください。

▼企画展「のぞいてみよう「地理教育の道具箱」」のホームページ

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/p09.html>

▼「地図教育の道具箱」のホームページ

<https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/>

2. 科学技術週間に測量用航空機「くにかぜ」の機内を公開します！

国土地理院は、毎年4月に筑波研究学園都市の各機関が参加している「科学技術週間」に今年も参加を予定しています。

地図と測量の科学館では、4月18日（火）と4月20日（木）に測量用航空機「くにかぜ」の機内公開を行います。

普段は入ることができない機内を見学することができますので、この機会にぜひご覧ください。

※科学技術週間とは、

科学技術について広く一般の方々に理解と関心を深めていただき、日本の科学技術の振興を図ることを目的として昭和35年2月に制定されました。全国の各機関では、おもにこの期間に各種科学技術に関するイベントなどを実施しています。



昨年の機内公開

（総務部）

当館は、新型コロナウイルス感染症対策のために感染リスクを引き下げた開館としています。詳細については「地図と測量の科学館」ホームページをご覧ください。
「地図と測量の科学館」ホームページ <https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>

令和4年度第2回国土地理院研究評価委員会を開催

令和4年度第2回国土地理院研究評価委員会（委員長：島津 弘^{しまづひろし} 立正大学教授）を、2月22日に関東地方測量部（東京都千代田区）においてウェブ会議との併用にて開催しました

今回の委員会では、令和2年度に開始し、令和6年度まで実施予定の特別研究課題「災害に強い位置情報の基盤（国家座標）構築のための宇宙測地技術の高度化に関する研究」の中間評価、令和4年度に終了する特別研究課題「AIを活用した地物自動抽出に関する研究」の終了時評価が行われました。

「素晴らしい成果をあげられた。」との評価を受けました。

委員からのコメントなど、本委員会の詳細は以下のURLをご覧ください。

https://www.gsi.go.jp/kikakuchousei/R4_2_kenkyuhyouka.html



委員会風景

（企画部）

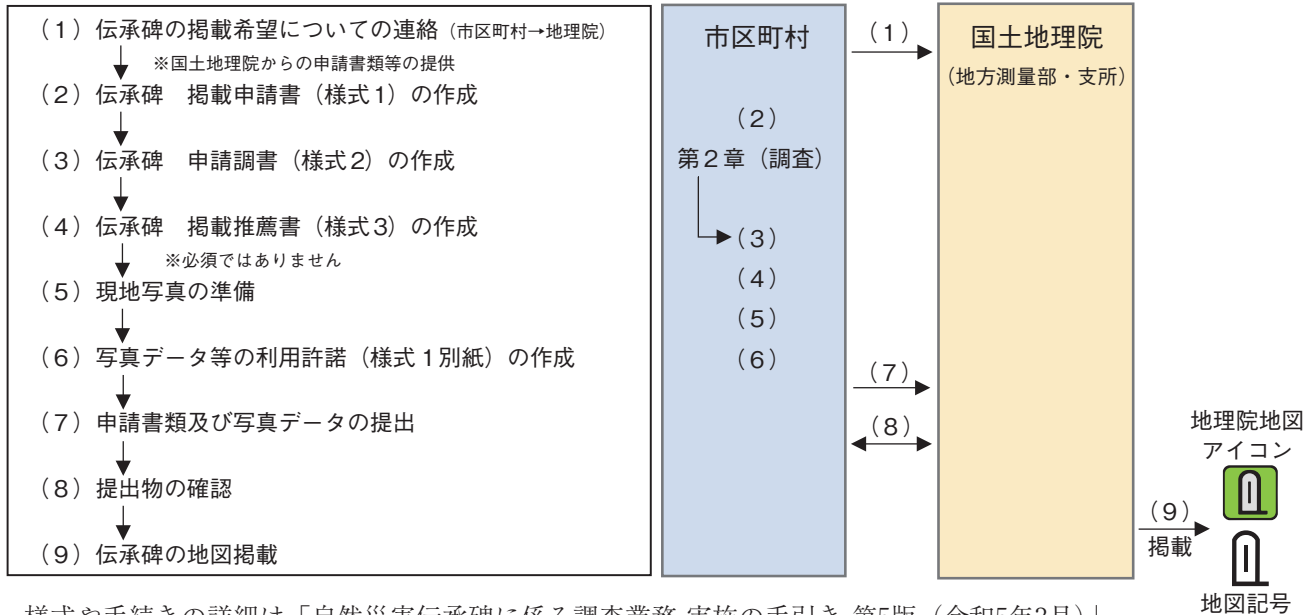
47 都道府県

542 市区町村

1874 基

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。
 [市区町村の担当者の皆様へ] 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第5版 (令和5年3月)」 (https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html) をご覧ください。

2月の報道発表

8日	令和5年1月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
28日	我が国の島の数を数えました	企画部 基本図情報部

報道の内容は、国土地理院ホームページ > 2023年 報道発表資料一覧 (https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2023_00001.html) をご覧ください。

4月の主な行事予定

3/21 ~ 6/25	企画展「のぞいてみよう「地理教育の道具箱」」
-------------	------------------------

国土地理院広報は、
 国土地理院ホームページ > 広報誌 > 国土地理院広報 (<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/>) に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院
 Geospatial Information Authority of Japan
 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
 TEL 029-864-6255
 FAX 029-864-6441
 連絡先：総務部広報広聴室
 国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>